

# 土佐清水市地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統  
事業評価(令和2年度)

## 土佐清水市基礎データ

合併状況: 昭和29年8月に4町が合併  
人口: 13,000人(令和2年11月30日現在)  
面積: 266.34平方キロメートル

## 土佐清水市における主な公共交通概要

### (幹線)

- ・足摺岬線  
四万十市の中村駅を起点とし、清水プラザパル前を經由し大浜まわりで足摺岬まで走る民間事業路線
- ・小才角線  
宿毛市の宿毛駅を起点とし、大月町小才角を經由し清水プラザパル前まで走る民間事業路線

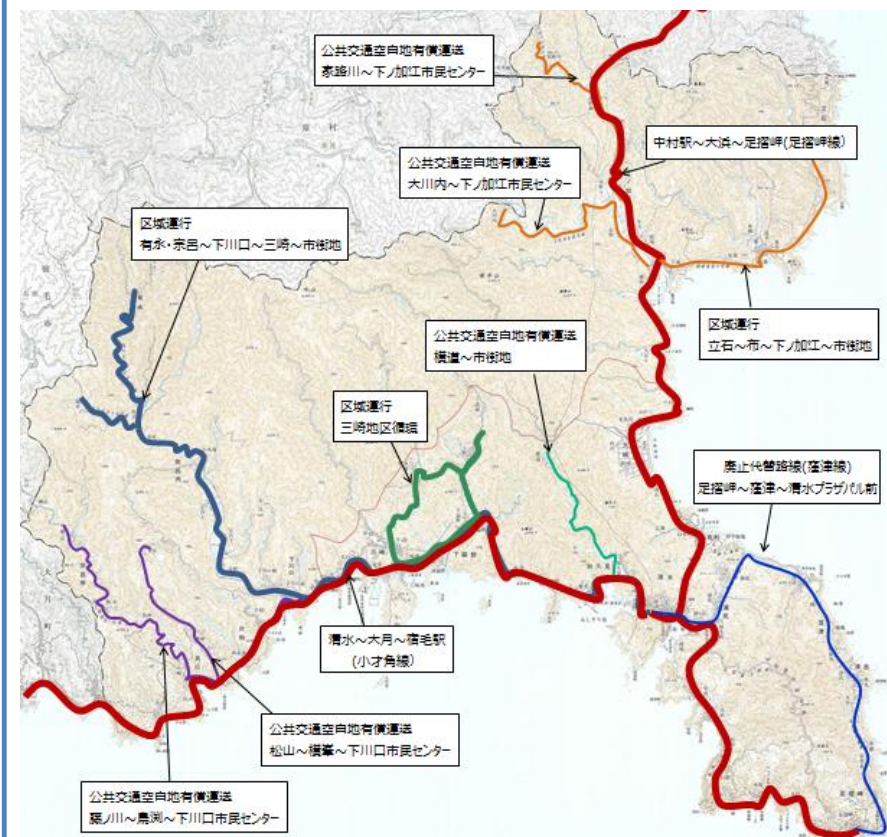
### (フィーダー)

- ・足摺岬から窪津を經由し、清水プラザパル前で幹線につながる廃止代替路線バス
- ・下ノ加江下浦バス停で幹線につながるデマンド区域運行
- ・三崎地区を循環し、幹線につながるデマンド区域運行
- ・下川口漁港前バス停で幹線につながるデマンド区域運行
- ・家路川から下浦バス停で幹線につながる有償運送
- ・大川内から下浦バス停で幹線につながる有償運送
- ・横道から清水プラザパル前で幹線につながる有償運送
- ・藤ノ川から下川口漁協前バス停で幹線につながる有償運送
- ・松山から下川口漁協前バス停で幹線につながる有償運送

## 地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

## 土佐清水市の公共交通ネットワーク図



# 土佐清水市地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統  
事業評価(令和2年度)

## 協議会の構成員

高知西南交通(株) (有)足摺交通 龍串見残観光ハイヤー(有) NPO法人ノアズアーク 中村警察署  
区長会 四国運輸局 土佐清水市観光協会 土佐清水市商工会議所 高知県 土佐清水市

## 前年度の事業評価における課題

平成27年度から事業を開始し、徐々に利用者は増えてはいるが、制度の認知度の低さや予約の手間などから利用は伸び悩んでいる。より一層周知を徹底し、バス乗り方教室を開催するなどして、認知度の向上を目指す。

## 定量的な目標・効果

### (目標)

・1月当たり運行回数を下ノ加江地区52回以上、下川口地区90回以上、三崎地区39回以上とする。

### (効果)

・当該路線を維持することにより、公共交通空白地の高齢者等の生活に必要な移動手段が確保される。また、幹線を走る路線バスと連携することにより、広域的な移動利便性が向上する。  
・高校生の通学手段を確保することで、保護者等の負担を減らし自動車利用の抑制を図る。

## フィーダー系統図



## 「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

・令和2年6月26日に協議会総会を開催しフィーダー系統確保維持計画について協議を行った。また、土佐清水市地域公共交通網形成計画の計画実施に向けた取り組みについても協議を行った。

## 自己評価

### 事業実施の適切性

- ・下ノ加江地区  
事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。
- ・下川口地区  
事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。
- ・三崎地区  
事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。

## 「定量的な目標・効果」の達成状況

- ・下ノ加江地区において目標は達成できなかった【利用回数目標52回/月に対し、実績値は49回/月】
- ・下川口地区において目標は達成できなかった【利用回数目標90回/月に対し、実績値は87回/月】
- ・三崎地区において目標を達成した【利用回数目標39回/月に対し、実績値は47回/月】

## 今後の事業に向けた改善点

学生の利用減少や、新型コロナウイルス感染症の影響により市街地方面への外出が減少し、利用の増加については若干伸び悩む数値となっているが、利用者増加に向けた取り組みとしては引き続き、広報誌やバスの乗り方教室などを通じたロコミなどを利用してデマンドバスの認知度向上および利用促進を図る。

現在、路線バス・デマンドバス・交通空白地有償運送により市民に対する移動の支援をおこなっているが、利用者の利便性向上に向けた運行をすることが一番重要になってくると考えるので、適宜見直しは必要になってくる。特にデマンドバスは中長期的に各地区の利用者の傾向分析であったり、バスの乗り方教室を通じての聞き取りを行い、利用者のニーズを把握することに努めたい。

## その他PRポイント

土佐清水市地域公共交通網形成計画を実施中であり、今後も利用者のニーズに合わせた取り組みを実施していく。